安心して老いるために！安らかな死を迎えるために！

いま日本の社会で問題になってきていることのひとつに、老後の最終段階となる終末期のケアの問題があります。すべての人にとって、絶対に避けられないのが死です。しかし自分がどんな死をむかえるかは誰にもわかりません。理想的な死とは、自宅で親しい人に見守られ、安らかな最後を迎えることではないでしょうか。

いま日本では病院での死が80%を越え、自宅での死は13%にすぎない状況です。

これは進歩する医療に対する信頼が生んだ傾向といえそうですが、現在、長期療養病棟に入院している人の半数近くは、高度の医療は必要ない状態といいます。

現在では、往診してくれる医師も少なく、自宅で安らかな最後を迎えるのは難しい状況です。

2006年4月、在宅療養支援診療所制度が設けられました。しかし、現在この制度は普及率が低く、その医療費の面などさまざまな問題もあります。

この映画では、日本での優れた在宅医療の例とともに、オーストラリアとスウェーデンの例も取材しました。これは医療サイドからの視点の作品ですが、在宅医療を支えるには、福祉サービスの充実が問われることを強く感じることにもなりました。さらに、政治は無論のことですが、医師の努力とともに、住民の力が必要なのだと痛感しました。

私どもは、この映画の取材にご協力くださいました皆様に心からの敬意を表します。そして深く御礼申し上げます。

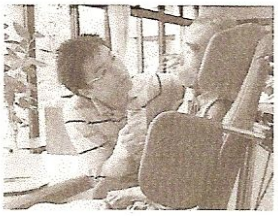
（演出：羽田澄子）

「終りよければすべてよし」の撮影対象について

オーストラリア
バララット市にある医療と福祉が提携した「バララット ヘルス サービス」の組織を説明。その組織の緩和ケア病棟「ガンダーラ」のはたらきを紹介。さらに総合病院とクリニックとの関連、また在宅医療を重視して、24時間の対応をするクリニックのはたらきを取材している。

ライフケアシステム
1980年に発足した在宅医療を会員制でささえているシステム。現在、会員は東京都を中心に約350世帯。会費（月7,000円）と健康保険で運営され、医師は常勤3人、非常勤2人。定期的に回診し、24時間対応の体制をとっている。日本で最も早く発足した在宅医療のシステムである。

スウェーデン
国として、人生終末の医療にどのように対応しているかを、社会大臣にインタビュー。かつての長期療養病棟が医療や介護の必要な人の住居となり、医療が対応している様子を紹介。また在宅医療の新しい体制である、高度な在宅医療チーム「ASIH（アシー）」の活動を取材。



総合ケアセンターサンビレッジ
岐阜県池田町にある特別養護老人ホーム。映画「安心して老いるために」でも主要な取材施設だった。入居者は130人、ショートステイ6人、デイサービス1日25人。この特養では、優れた介護をベースに、数年前から常勤の医師の参加によってターミナルケアを行なっている。

医療法人アスムス
栃木県小山市、栃木市、茨城県結城市にまたがる地域で在宅医療を行なっている。医師は常勤5人、非常勤4人。24時間対応の体制をとっている。国の制度となった在宅療養支援診療所である。また老人保健施設はじめ、在宅医療を支える看護や介護などの事業も立ち上げている。

羽田澄子監督作品

長編ドキュメンタリー映画

終りよければすべてよし

All's Well that Ends Well

製作＝工藤 充■演出・ナレーション＝羽田澄子■撮影＝西尾 清■整音＝岩橋政志（アオイスタジオ）■ピアノ＝高橋アキ（サティ・ピアノ音楽全集 東芝EMI）■海外インタビュー部分ナレーション＝喜多道枝■演出助手・ノンリニア編集＝佐藤斗久枝■コーディネーター＝マーフィー洋子（オーストラリア）・藤井恵美（スウェーデン）■翻訳＝小林明男・瀬口 巴■協力＝ライフケアシステム／総合ケアセンターサンビレッジ／医療法人アスムス／バララットヘルスサービス／クレズウィックメディカルセンター／ストックホルムシックホーム／ストールトルプ老人センター／アシーロングプロパーク／ソルベリーガーデン／新潮社／読売新聞社／朝日新聞社／毎日新聞社／NHK厚生文化事業団／日本ホスピス緩和ケア協会［2006年／129分／カラー］

製作・配給＝株式会社自由工房 〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-1 TEL：03-3463-7543 FAX：03-3496-4295 Email：jiyu-kobo@nifty.com■ポスターデザイン＝小笠原正勝・秋山京子

この映画は、第１６回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会ｉｎ千葉（７月 12 日・13 日）のプレ大会として上映されます

市川会場　平成２０年５月３日（土）

【上映時間】129 分、入場 30 分前

１１：００、１４：３０、１８：００

【場所】市川市市民会館(047-335-1542)

ＪＲ総武線本八幡駅 北口徒歩７分

京成線八幡駅　徒歩４分

都営新宿線本八幡駅　徒歩６分

市川・千葉会場とも自由席：１０００円

千葉会場　５月１１日（日）

【上映時間】129 分、入場 30 分前

１１：００、１４：３０

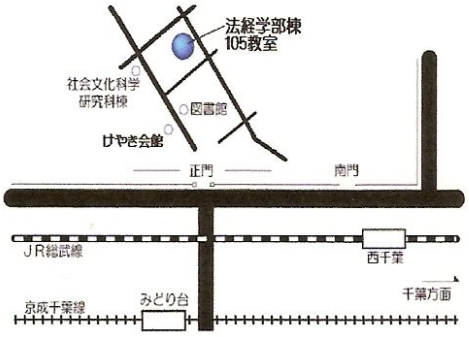
【場所】

千葉大学法経学部１０５教室

ＪＲ総武線西千葉駅 徒歩７分

京成線みどり台駅　徒歩 14 分

両会場とも要事前申込(当日可

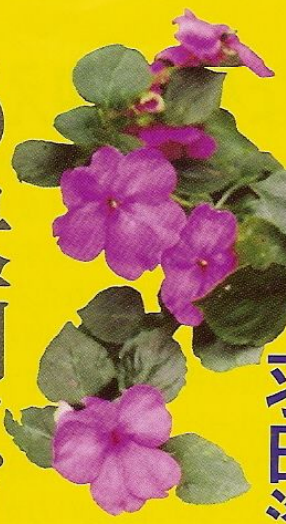


問合せ・申込：ＮＰＯ法人「ピュア」TEL070-5554-3734、FAX047-448-7689　http://www.npo-pure.npo-jp.net/

すべての人にとって、絶対に避けられないのが死です。しかし自分がどのような死を迎えるかは誰にもわかりません。現在、殆んどの人が病院で死を迎えています。自宅での安らかな死を望んでも、往診してくれる医師も少なく、難しい状態です。

終りよければすべてよし

羽田澄子監督作品



製作＝工藤　充■演出・ナレーション＝羽田澄子■撮影＝西尾　清■整音＝岩橋政志（アオイスタジオ）■ピアノ＝高橋アキ（サティ・ピアノ音楽全集　東芝EMI）■海外インタビュー部分ナレーション＝喜多道枝■演出助手・ノンリニア編集＝佐藤斗久枝■コーディネーター＝マーフィー洋子（オーストラリア）・藤井恵美（スウェーデン）■翻訳＝小林明男・瀬口巴「2006年／129分／カラー」

この映画は日本での先進的な在宅医療、さらにオーストラリア、スウェーデンの状況も取材し、終末期医療が緊急課題であると問いかけています。

All's Well that Ends Well
長編ドキュメンタリー映画

製作・配給＝自由工房

協力＝ライフケアシステム■総合ケアセンターサンビレッジ■医療法人アスムス■パラフットヘルスサービス■クレスウィックメディカルセンター■ストックホルムシックホーム■ストールトルプ老人センター■アシーロングプロパーク■ソルベリーガーデン■新潮社■読売新聞社■朝日新聞社■毎日新聞社■NHK厚生文化事業団■日本ホスピス緩和ケア協会